

PREVIEW

ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2017 大会展望

2007年に「若い選手たちが国際大会で経験を積む場にしたい」との思いからスタートしたこの大会も10回目を迎えることとなった。そしてこの大会で多くの優勝者が世界へ旅立っていった。2009年に女子ダブルスで優勝した高橋礼華／松友美佐紀組がリオデジャネイロオリンピックで金メダルを獲得した事は記憶に新しい。

そして、2017年。今年も大阪に東京オリンピックをめざすホープたちが集結する。ナショナルチームA代表は、同日程で行われるスーパーシリーズの「インドオープン2017」に出場するため、各種目の日本チャンピオンの不在は残念だが、若手にとっては存在をアピールする大きなチャンスだ。

また海外からも11か国100人を超えるエントリーがあった。

今年も若手の台頭と、壁となってそれを簡単には許さない中堅・ベテラン選手の激突、世界に飛躍したい海外選手との対決など、多くの見所が満載の国際大会に相応しい戦いとなるだろう。

特に今年はオリンピックの翌年ということもあり、各国で世代交代が進む中、若い日本選手がどのようなプレーを見せてくれるのか。2020年の東京オリンピックを夢見る若い世代にとって、ここ大阪・守口がスタートラインだ。

では、各種目の日本人注目選手にスポットを当てて紹介しよう。

まずは男子シングルス。今大会唯一ナショナルA代表から出場する五十嵐優（中央大学）を軸に展開されそう。対抗馬となるのは全日本総合3位入賞の小野寺裕介（日本ユニシス）、下農走（トナミ運輸）あたりか。若手注目選手は高校生になったばかりの奈良岡功大（浪岡高）だ。全日本総合では1回戦で敗れたものの、ジュニア時代から注目されてきた逸材がフレッシュな旋風を吹かせてくれるだろう。

一方、今年的女子シングルスは予想がつかないくらい激戦になるだろう。潜在能力の高い若手ホープの大堀 彩（トナミ運輸）は東京五輪に向けて好発進といきたいところだ。その大堀を実績で上回るのが怪我から復活の高橋沙也加（日本ユニシス）。2年ぶり3度目の優勝に期待がかかる。中堅の域に入ったが、全日本社会人優勝や全日本総合4強など実績を積み上げてきた鈴木温子（ヨネックス）のプレーにも注目だ。

男子ダブルスは若手による戦国時代の様相だ。今年ナショナルB代表に選ばれた渡邊達哉／権藤公平（トナミ運輸）を中心に、ナショナルB代表の若手ペア小野寺雅之／岡村洋輝（早稲田大学／日本ユニシス）、金子真大／久保田友之祐（ふたば未来学園高校）らの若さ溢れるプレーにも期待したい。

女子ダブルスではナショナルメンバーの長身コンビ永原和可那／松本麻佑（北都銀行）、スピード生かした攻撃が持ち味の篠谷菜留／星 千智（日本ユニシス）、粘り強いディフェンスが得意の新玉美郷／渡邊あかね（NTT東日本）、この3ペアが優勝候補となってくるだろう。その他に昨年の全日本総合ベスト8の川島里羅／尾崎沙織（NTT東日本）、日本ランキングサーキット優勝の櫻本絢子／高畑祐紀子（ヨネックス）らも上位進出の期待がかかる。

混合ダブルスは、固定されたペアが少なく、どのペアが優勝しても不思議ではないほど混戦となるだろう。過去4大会はインドネシアや韓国など外国人ペアが優勝している。国内からはナショナルB代表やナショナルジュニアがエントリー。若手にとって練習量は少ないが、思い切ったプレーで存在をアピールする大きなチャンスだ。